

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

業績回復は来期が本番！ 業績変化に注目せよ！



日経平均株価は大台1万2000円台で値固めの様相。指数を押し上げてきた日経平均株価構成銘柄から、金融関連などへの資金シフトも進むなど、活発な循環物色が見られている。

前回コラムでも「活況相場では『資金効率重視』で複利効果を狙え！」としたが、期末接近で配当妙味株、そして株価対策の意識が強まる低位、バイオなどの資金循環が著しい。さらにメタンハイドレート関連の日本海洋掘削(1606)、三井海洋開発(6269)、含み資産関連の東京都競馬(9672)、TPP関連の井関農機(6310)など、テーマ株が人気化する場面も見られた。

ただ、これらテーマ株人気が一服すると、これから始まる新年度を見据えて、新たな物色対象を模索する局面か。会社四季報発売で企業業績に注目が集まるなか、やはり来期の業績変化が注目されてこよう。とくに今期は円高から円安トレンド転換も下半期から訪れたことで、上期はまだ厳しい収益環境に置かれていた銘柄も多い。4月から始まる来期こそ業績回復を鮮明にしていくのではないか。

そこで弊社では「来期の業績変化」に着目した「厳選5銘柄付き市況分析レポート」を発売する。企業分析が主体となるため、弊社情報分析部のリサーチ力も試されるだろう。このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。